

平成30年度スーパーバイザーによる学校教育支援事業報告書

研究テーマ「 協同的な学び合いを取り入れ、自ら考え、相手と伝え合い、
共に高まることを喜びとする主体的学習者の育成 」

倉吉市立 東中学校

スーパーバイザー： 中京大学 国際教養学部 杉江修治 教授

1 はじめに

本校は、倉吉市の中心部に位置し、平成30年度に創立71年を迎えた鳥取県中部の公立中学校である。現在本校に在籍している生徒（男子130名、女子142名 全校生徒272名）のほとんどは倉吉市内の小学校出身者で、校区内4小学校から入学してくる。

平成26年度から杉江修治スーパーバイザーのご指導のもと、「協同的な学び合い」をキーワードに全教科で研究を進めてきている。協同学習の基本理念を取り入れ、本校の学校教育目標である「自ら学び、判断し、行動する生徒の育成」を目指して、取り組みを進めている。

2 研究のねらい

- ・協同的な学び合いを柱に、校訓にある自学（進んで自ら学ぶ）、自主（自ら考えて行動する）、共生（みんなで協力して行動する）を具現化する。
- ・生徒が主体的な学習者として、共に考え、伝え合い、お互いの高まりを喜びとする集団に育てることを目指す。
- ・教員自身の協同学習の捉えを一致させ、互いに高め合える教員集団をつくる。

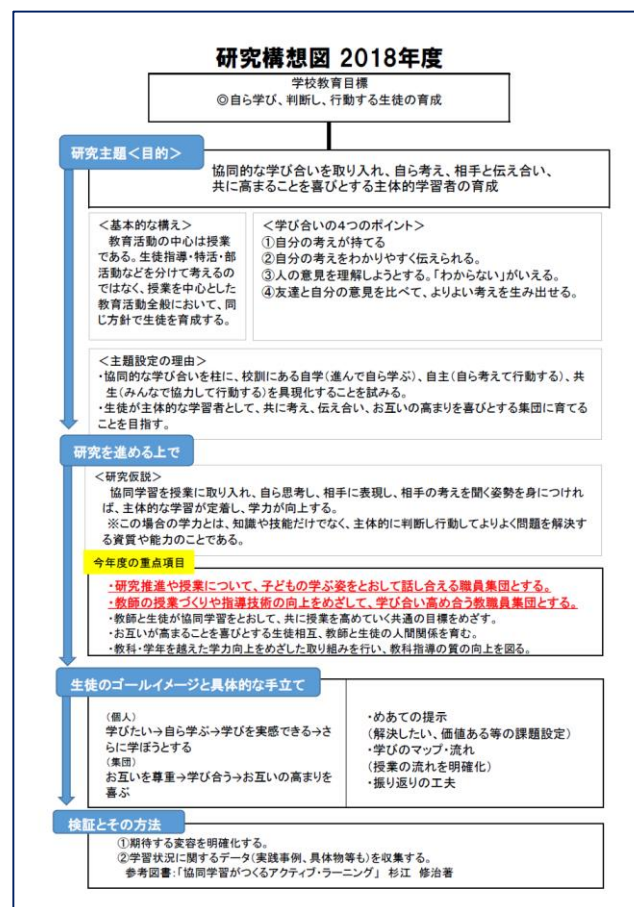
3 研究にあたって

① 基本的な構え

教育活動の中心は授業である。生徒指導・特活・部活動などを分けて考えるのではなく、授業を中心とした教育活動全般において、同じ方針で生徒を育成する。

② 研究仮説

協同学習を授業に取り入れ、自ら思考し、相手に表現し、相手の考えを聞く姿勢を身につけることができれば、主体的な学習が定着し、学力が向上する。
※この場合の学力とは、知識や技能だけでなく、主体的に判断し行動してよりよく問題を解決する資質や能力のことである。



研究構想図

③ 研究を進める上で

- ・教師と生徒が協同学習をとおして、共に授業を高めていく共通の目標をめざす。
- ・お互いが高まることを喜びとする生徒相互，教師と生徒の人間関係を育む。
- ・教科・学年を越えた学力向上をめざした取り組みを行い，教科指導の質の向上を図る。
- ・研究推進や授業について，子どもの姿をとおして話し合える職員集団とする。
- ・教師の授業づくりや指導技術の向上をめざして，学び合い高め合う教員集団とする。

上記の5つの項目を年度当初に教員内で共通理解するとともに，生徒のゴールイメージと具体的な手立てを全教員で話し合い，決定した。

<生徒のゴールイメージ>

- ・(個人) 学びたい→自ら学ぶ→学びを実感できる→さらに学ぼうとする
- ・(集団) お互いを尊重→学び合う→お互いの高まりを喜ぶ

<具体的な手立て>

- ・めあての提示 (解決したい，価値ある 等の課題設定)
- ・学びのマップ・手順 (授業の流れの明確化)
- ・振り返りの工夫

以上の共通実践項目を教員内で共通認識し，教員自身の協同学習の捉えを一致させた。

④ 研究グループを組織

上記に示した5つの項目の中でも，今年度は特に授業を通して学び合い高め合う教員集団づくりに重点を置き，5つグループを編成し，年間を通して研究を行った。グループの編成にあたっては，教科や学年がバランス良く混じり合うようにし，多面的で多角的な意見交換が行えるようにした。このグループで，指導案検討や授業研究会のグループ協議を行うとともに，宣言授業（各教員が年に1回以上授業を公開し，事後研究会を行う）の際にも，グループ単位で授業を見合い，事後の協議を行った。

4 研究内容

(1) 授業研究会の実施

① 5月10日 杉江修治教授を招聘し，第1回校内授業研究会を開催

協同学習のポイントについての指導を受けた。5限の研究授業の他に，杉江教授には3限と4限の時間の授業を見ていただき，そのすべての授業に指導・助言をいただいた。以下に主な指導・助言を示す。

- ・「教えなくては」と肩の力が入った授業が少なくなった。
- ・いい意味で「教えない」，力の抜けた授業が多く見られた。
- ・これまでのやってきた東中の取組が，共有された文化になってきている。
- ・教えることよりも学ばせる。生徒の学びを支援する。
- ・授業の目的を明確にし，必要感を持たせる。
- ・授業での課題解決の先に，どんな力を引き出していくのかという視点を持つこと。課題の値打ちを語ること。
- ・1つ1つのコンポーネンツがどこに結びついていくのかを子ども自身がわかるようにする。
- ・個人単位ではなく，「クラス全体」や「みんなで」達成するねらいとして定めるようにする。



- ・単に話し合えばいいのではない。グループ学習が協同学習ではない。意見をそれぞれ言いました、では終わってしまっては駄目。意見を言った上で、高めあうことができるのかが大事。仲間への貢献という意識を常に持たせることが大切である。

② 11月8日 杉江修治教授を招聘し、第2回校内授業研究会を開催

1回目の授業研究会からの授業改善の進捗状況を中心に見ていただいた。2回目は技能教科を取り上げ、音楽と技術の研究授業を行った。また、1回目と同様、2限と3限の時間を見ていただき、そのすべての授業に指導・助言をいただいた。以下に主な指導・助言を示す。

- ・学校教育目標にみんなが向かって「共通の課題」に取り組むことは必要。教員の個性を活かしながら、アプローチしていくべき。お互いが向かっていくのだという信頼感を持つことが一番大切。

- ・学習課題をはっきり示し、ゴールを明確にする。授業が終わったときに、生徒が「ゴールに近づいたぞ」と思えるようにする。先生に言われたからするのではなく、子どもがきちんとそれを受け止めていることが重要である。

- ・学びの地図。どういう道をたどっていくのかを示す必要がある。その都度その都度では言われたからやっている段階。見通しを教師と子どもが共有していることが大事。

- ・「変わるために授業を受けているんだ」ということを示してほしい。授業は心と心の格闘技でもある。そこで、変わるために授業に臨んでいるんだ。勉強するって変わることなんだ。そのことを自覚させるためにも、振り返りが重要。君はどうだったんだ、と気づかせていくこともまた重要。毎時間ではなくても、学びのひとくくりでやっても良い。人間関係の側面でも振り返らせる。こういう試みは高め合う学級づくりの手立てとして有効な働きかけである。



(2) 宣言授業の実施

2回の校内授業研究会の他に、年1回以上、各教員が指導案を作成し授業を公開する宣言授業を行った。宣言授業毎に、年度当初に決めた3つの具体的な手立ての他、協同学習の視点について、グループ内で振り返りを行った。各グループ年間5回程度、校内全体では合計25回以上の授業研究及び研究協議を行った。

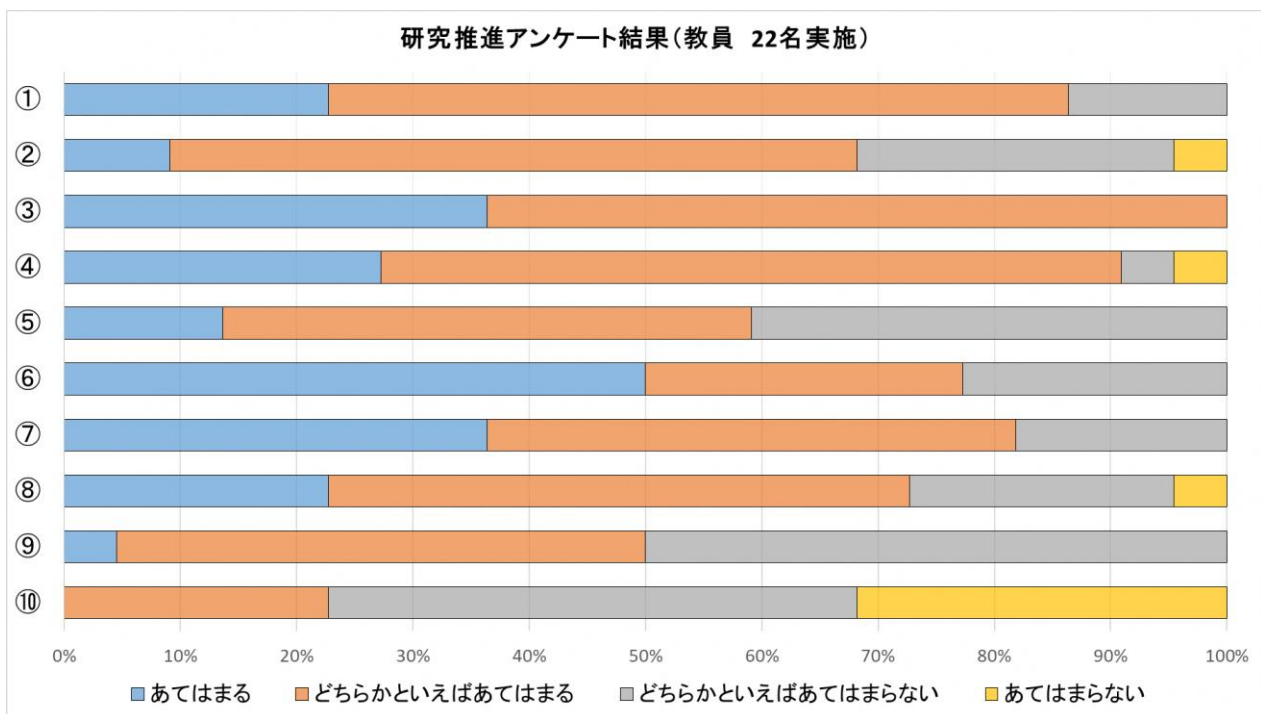


5 研究のまとめ (成果と課題)

杉江教授のご指摘にもあったように「教えなくては」と肩の力が入った授業が少なくなり、教える授業から「どう学ばせるか」といった学びの支援に力を入れた授業が増えた。研究テーマにある「自ら考え」については、多くの授業の中で個人思考の時間がしっかりと確保されており、「相手と伝え合う」ことにより深め合う授業展開が多くなった。また、教員対象に行ったアンケート（下図参照）によると、「①協同学習の考え方を説明することができる」と答えた割合が9割近くに対して、「②授業で十分に協同学習に取り組むことができている」と答えた割合が7割程度と、全員が確信をもって取り組むまでに至っていないと考えられる。また、年度当初に決めた共通実践について、「めあての提示」と「学びの

手順」については、ほとんどの授業で定着しており、教員自身も生徒が主体的に活動に取り組むことができる手立てであるという実感を持っている。めあての内容についても、「～する」といった行動目標ではなく、「～することができる」や「説明できる」といったゴールを明確に示したものが増え、「みんなに」といった言葉も多く使われるようになった。一方で「振り返りの工夫」については、各教員が試行錯誤を行っている段階であり、十分な時間を設定するために苦慮している。

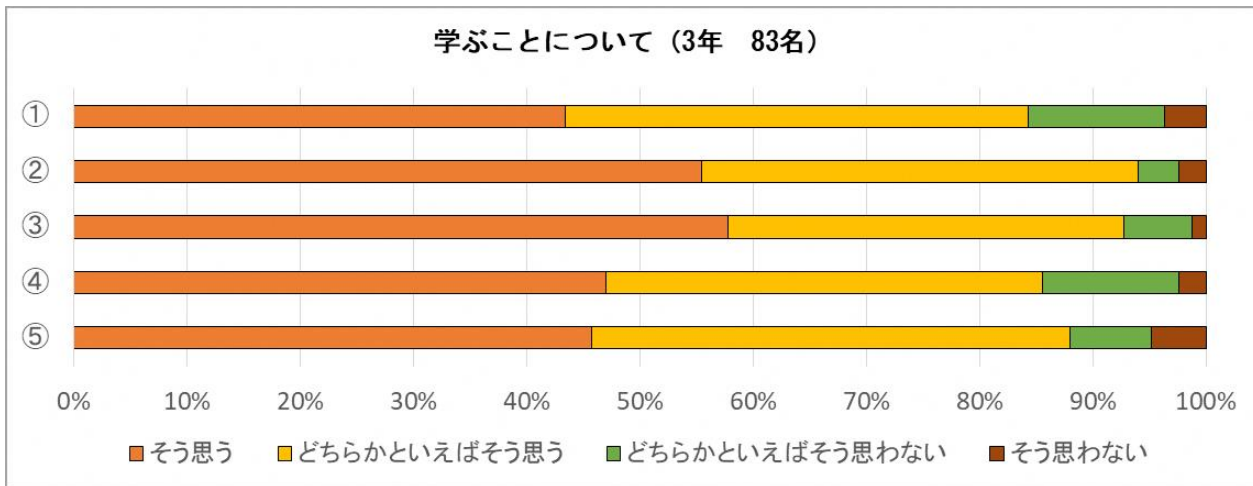
また、今年度より取り入れた研究グループについては、「⑥ 教科以外の研究グループ内で授業を見合うことは刺激になる」「⑦ 研究グループ内の話し合いは刺激になる」「⑧ 他の先生と共働して授業づくりをすることができた」と答えている教員が多く、教科を越えた交流が学校教育目標に全員で向かう意識を高め、「共通課題」に全教員で取り組むことにつながっていると思われる。また、五教科については普段から教科内で連携をとっているが、技能教科の教員にとってはそれが難しいため、研究グループ内での協議は多角的な視点を得ることができるよい機会となっている。



質問項目

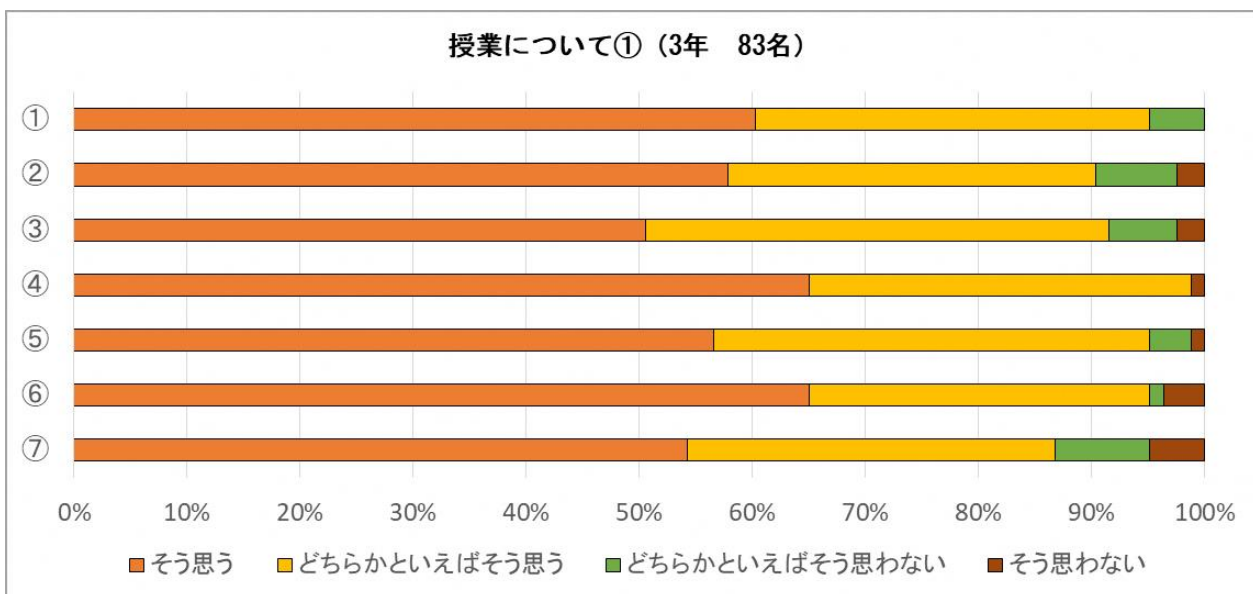
- ① 協同学習の考え方を説明することができる
- ② 授業で十分に協同学習に取り組むことができている
- ③ 「めあてを示す」ことにより、生徒が主体的に活動に取り組むことができると実感がある
- ④ 「学びの手順を示す」ことにより、生徒が主体的に活動に取り組むことができると実感がある
- ⑤ 「振り返りをする」ことにより、生徒が主体的に活動に取り組むことができると実感がある
- ⑥ 教科以外の研究グループ内で授業を見合うことは刺激になる
- ⑦ 研究グループ内の話し合いは刺激になる
- ⑧ 他の先生と共働して授業づくりをすることができた
- ⑨ 自分の授業づくりや指導技術が向上したと思える
- ⑩ 授業づくりや打ち合わせの時間などが十分にとれた

教員の実感として、生徒が主体的に学習に向かうことができている場面が増えたが、生徒達自身の実感との差を検証するため、年度末を実施した。質問項目は「学ぶことについて」、「授業の取り組みに関する項目」、「授業中の教員の具体的な手立てに関する項目」、「家庭学習について」の4つの項目について行った。結果を以下に示す。ただし、実施時期の都合により、3年のみを紹介する。



質問項目

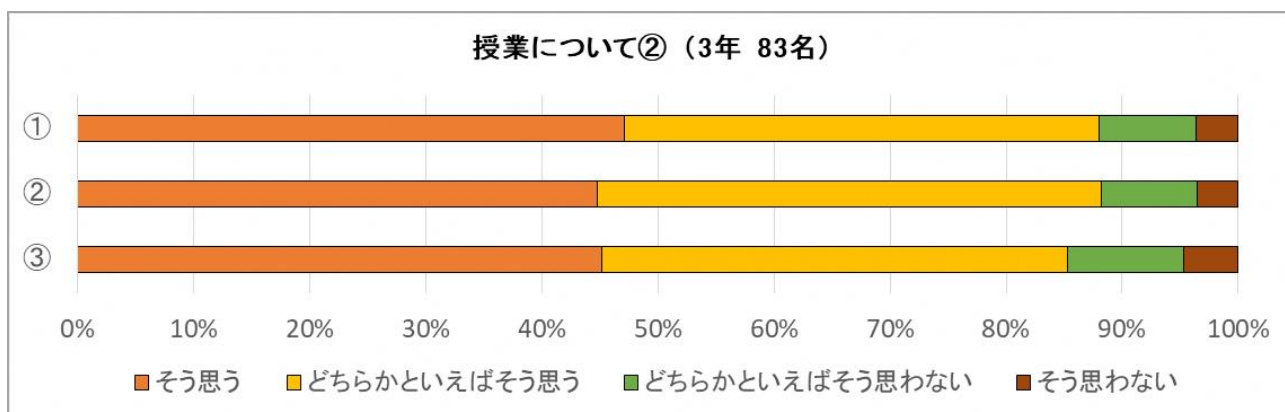
- ① 学ぶこと（新しい知識や見方、考え方を身につけたりすること）は好きですか
- ② 1年間の学習を通して、自分のものの見方や考え方が豊かになりましたか
- ③ 仲間とともに学習することは自分の学びを豊かにしていますか
- ④ 学習すべき内容を、自ら考えて選択し、学習することができますか
- ⑤ わからないことや疑問に思ったことがあれば、進んで調べていますか



質問項目

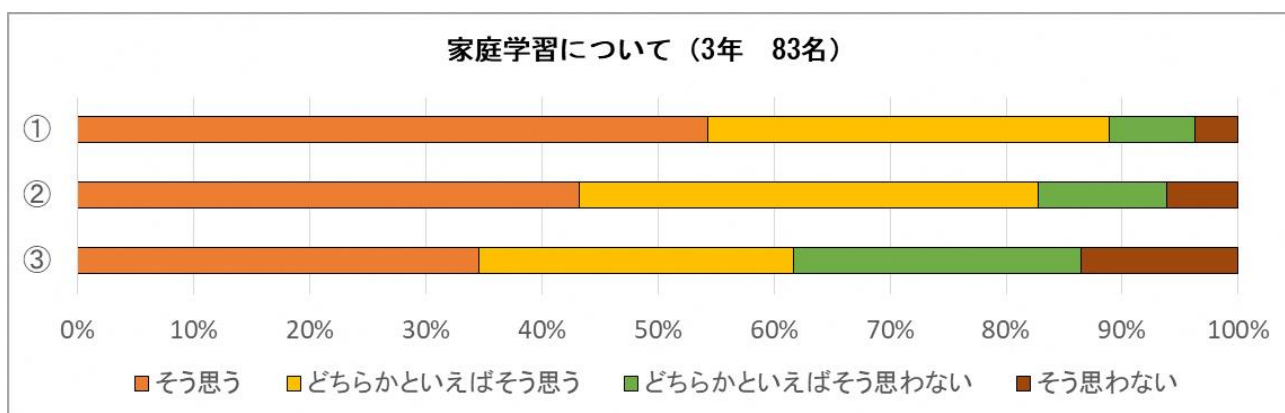
- ① 忘れ物をしないなど、学びに向かう準備ができていますか
- ② 自分の考えを書く場面などで、自分の考えをしっかりと持つことができますか
- ③ 自分の考えを仲間に伝える時に、相手にわかりやすく伝えようと工夫をしていますか
- ④ 仲間の意見を理解しようとして、真剣に意見を聞くことができますか

- ⑤ 仲間と自分の意見を比べて、自分の考えを修正し、よりよい考えを生み出そうとしていますか
- ⑥ 困ったときやわからないことがあったときに、仲間に「わからない」と伝えることができますか
- ⑦ 仲間が頑張っている姿を見ると、自分のこととして喜ぶことができますか



質問項目

- ① 授業のなかで示されている「めあて」は、その時間に学習する内容や目標がイメージできるようなものになっていますか
- ② 「学びの手順」は、その時間に学習する過程を表しており、1時間の授業の中で自分が次に何をすべきかがわかるものになっていますか
- ③ 毎時間、振り返りシートなどを使って、1時間の「めあて」が達成できたかどうかなどを振り返ることができていますか



質問項目

- ① 宿題は期限に間に合うように提出することができますか
- ② 宿題以外に自ら考えて、自主学習を行っていますか
- ③ 1日の学習時間を決めて取り組むことができますか

結果を見ると、ほとんどの項目で肯定的な回答をしている生徒が8割以上となっている。「学習すべき内容を自ら考えて選択し、学習することができる」や「自分の考えを書く場面などで、自分の考えをしっかりと持つことができる」、「宿題以外に自ら考えて、自主学習を行っている」と答えている生徒が多いことから、自ら考え、主体的に学ぶことができる生徒に育っていると考えられる。また、「仲間とともに学習することは自分の学びを豊かにしている」や「仲間が頑張っている姿を見ると、自分のこととして喜ぶことができる」などと答えている生徒が多いことから、共に高まることを喜びとする集団がつけられている

ことが考えられる。共通実践項目である「めあての提示」や「学びの手順」、「振り返り」については、教員の実感と同じく、生徒の学びに有効なものとなっている。しかし、教科別に集計した結果を見ると、振り返りについては教科による差がある。うまく機能している教科の振り返りを参考にし、教科の特性に合わせて振り返りシートを改善していきたい。

今後、定期的にアンケートを実施し、経年の変化を見ていく予定である。しかし、アンケートによって、ともに高まることを喜びとしているかなどの生徒の内面を十分にはかり取ることができるのかは検証が必要である。この研究を進めていく上で、生徒の内面の変容をはかり取る指標の確立も重要であると考えており、検証方法について今後も研究を行っていきたい。

6 おわりに

教員の中に、協同学習の考えが浸透してきており、仲間とのつながりを意識した価値付けや学ばせ方の工夫が見られるようになった。また、授業中にもグループでの話し合いやペアでの学び合いが多く取り入れられている一方で、その意味や意義を十分に生徒が理解していないまま行われている活動もまだ見られる。「ただ話し合うだけでは協同学習ではない」杉江教授の教えを再度、共有していきたい。そして、協同学習の考えが全教員に深く浸透していくまで、これからも教員内での協議を進めていきたい。

今年度は鳥取県のスーパーバイザーとして杉江教授を招聘し、協同的な学び合いを取り入れ、自ら考え、相手と伝え合い、共に高まることを喜びとする主体的学習者の育成を目指してきた。今後もお互いが学び合い、高まり合うことを喜びとする「学びの集団」づくりを継続し、教員自身もお互いに学び合い、高まり合う教員集団になり、授業改善を進めていきたいと考えている。